



## 2024年度 夏のフィールドワーク

# 高句麗遺民の足跡を訪ねて

### 目的

663年、朝鮮半島の三国の一つであった百済が唐・新羅の連合軍によって滅ぼされます。日本（倭）は百済の復興を支援するため朝鮮半島に出兵しますが、白村江の戦いで大敗を喫してしまいました。

666年、朝鮮半島の三国の一つで、唐・新羅と対立を続けていた高句麗は、日本（倭）に使節を派遣します。その使節の中に高句麗の王族の一人である**若光**という人物がいました。

668年、高句麗が唐・新羅の連合軍によって滅ぼされると、多くの遺民が日本（倭）に亡命しました。

716年、日本は関東周辺に散居していた高句麗の遺民1799人を武蔵野の国に集め、高麗郡を置きました（『続日本紀』巻7）。この遺民たちの指導者となったのが、かつて使節として日本に訪れた若光でした。若光は高句麗が滅んだ後、日本（倭）に亡命し、703年、朝廷から高麗王若光こまのこきしじゃっこうという王の姓<sup>(1)</sup>を与えられていたのです。

高句麗王家の血統を伝える若光が亡くなると、遺民たちは霊廟を建てて、彼を祀りました。これが今回見学する高麗神社こまです。

ちなみに百済最後の王・義慈王の子で日本に残った善光くだらのこにきしも百済王の姓を与えられています。大阪府枚方市ひらかたには、百済王氏の祖霊を祭る百済王神社があります。

高麗神社の近くには、若光の三子の聖雲がその師である高麗僧勝楽の冥福を祈るために、勝楽が高句麗から将来した歡喜天（聖天）を安置して開基した高麗山しょうてんいん聖天院勝楽寺があります。

高麗神社と高麗山聖天院勝楽寺を訪ね、古代日本と朝鮮半島との関わりについて考えてみましょう。

### 注釈

(1)王の姓・『周書』巻49百済伝によれば、「（百済の）民は王を韃吉支と呼ぶ」とあり、王はこの古代朝鮮語に由来する姓かばね（家柄を表す称号）。

### 行程

- 13:10 大学出発
- 13:38 市ヶ谷駅発（東京メトロ有楽町線・2番線）
- 13:56 小竹向原着
- 13:58 小竹向原発（東京メトロ副都心線急行・3番線）
- 14:24 川越駅着
- 14:37 川越駅発（JR川越線八王子行・4番線）
- 14:58 高麗川駅着  
（徒歩）
- 15:22 高麗神社着



- **高麗神社** (→[境内マップ](#))

〒350-1243 埼玉県日高市新堀833

TEL/042-989-1403

**高麗家住宅**・若光の末裔である高麗氏の旧屋敷。慶長年間（1596～1614年）頃の建立とされ、1971年に国指定重要文化財に指定された。

とぎんはとさかきほりもんながふくりんたち

鍍銀鳩神文長覆輪太刀・国選定重要美術品

- **高麗山聖天院勝楽寺** (→[境内マップ](#))

〒350-1243 埼玉県日高市新堀990-1

TEL042-989-3425

**高麗王廟と聖天院層塔**（伝・高麗王若光の墓）・・日高市指定文化財

**高句麗若光王陵碑**（碑銘は韓国元首相金鍾泌氏揮毫）

**在日韓民族慰霊塔**・日本統治時代に亡くなった在日コリアンの無縁仏慰霊塔。秩父長瀬で農園業を営む在日一世尹炳道氏が私財を投じ、2000年に竣工。周囲には、朝鮮様式の八角亭や**檀君**（名は王儉。天神の子と熊の間に生まれ、平壤に都して、1500年間、朝鮮を治めたという朝鮮全土の始祖神）・**広開土大王**（好太王とも、高句麗の第19代の王(在位 391～412)) ・**太宗武烈王**（新羅の第29代の王（在位 654年 - 661年）金春秋。新羅による三国統一に大きく貢献した）・**王仁博士**（かわちのふみのおびと 応神天皇の時代に百済から来た渡来人、朝廷の文筆に従事した西文首の祖）、**鄭夢周**（チョン・モンジュ 1338-92 高麗末期の政治家、儒学者）、**申師任堂**（シン・サイムダン 1512-59 李朝時代の女性画家。儒学者李栗谷の母。5万ウォン紙幣の肖像となっている）などの石像がある。

〔参考〕尹炳道氏が語った慰霊塔建立の趣旨

「在日韓民族慰霊塔と慰霊碑は、民族統一を願い、日本国内における民団や朝鮮総連の垣根を超え、関東大震災、第2次大戦で犠牲となった同胞の御霊と、渡来人の御霊が安眠できるように供養したい、との願いを込めて発願しました。

私が高麗の地に『白衣民族の聖地』をつくろうと思い立ったのは、李方子女史が聖天院を訪れた二十数年前に遡ります。李女史は私を前に『自分が死ねば高麗若光の隣に骨を埋めたい』と語った。李女史の願いは叶えられなかったが、それ以来『朝鮮人、韓国人の全てのお骨を拾ってあげよう』という気持ちに傾いていったのです。

まず思い浮かんだのが、**関東大震災で犠牲になった同胞の霊**、東京・目黒の祐天寺に保管されたまま、引き取り手のない**第2次大戦当時の同胞軍人・軍属の遺骨**、いずれは、全国に散らばる引き取り手のないまま放置されている無縁仏を、安置したいのです。

白衣民族の聖地にすれば、朝鮮人でも韓国人も区別なく、いろんな人が好きなときに来て線香を手向けられるとおもう。完成したら10月3日の開天節に合わせ法要をしていきたいとおもいます。6・25動乱（朝鮮戦争）の最中、何の罪もない同族が死んでいくのを目のあたりにしたので、『白衣民族の聖地』には南北の平和統一を願う気持ちもこめました」（河正雄著『日本と韓国二つの祖国に生きる』明石書店 2002年より）

17:30 高麗山聖天院勝楽寺発

（徒歩）

18:00 高麗川駅着（解散）



参考地図

